



地域に長く守り伝えられてきた 伝統文化や郷土芸能を支援

千葉県遊技業協同組合 「地域の伝統文化・芸能支援」 事業



千葉県遊技業協同組合
理事長
田中幸也さん

「夢まるふぁんど」を創設して 福祉・地域振興・文化事業を支援

能楽、人形浄瑠璃文楽、歌舞伎などに続いて、2016年に山・鉦・屋台行事(18府県の計33件)がユネスコの無形文化遺産に選ばれ、伝統文化や郷土芸能に対する関心が高まっている。世界的に注目を浴びる大がかりなものだけでなく、小規模ながら地域に根ざした、長い間、住民によって守り伝えられてきた数多くの文化や芸能がある。そうしたものを後世に守り伝えていくことも、地域社会を存続させ、絆を育むうえで大切なことのひとつである。

千葉県遊技業協同組合(以下、千遊協)では、社会貢献活動を推進するため、2005年に県内メディア3社(千葉日報社、千葉テレビ、ベイエフエム)と共同で「夢まるふぁんど」を立ち上げた。これは千遊協加盟ホールに来店したお客様の協力を得て、いわゆるこぼれ玉や余り玉を提供してもらい、それを原資とする基金である。その基金から毎年、福祉事業(ちばボランティアアシスト)、地域振興事業(ちばふるさと振興サポート)、文化(国際)事業の3分野で活動する県内の団体・組織などに支援金を提供するという事業を続けている。

このうち、文化・国際事業への支援事業は、これまで継承されてきた地域の伝統文化、伝統芸能などを後世に伝えるために財政的な支援(1団体上限50万円)を行うもの。千葉県内には古くから各地域に伝わる伝統文化や伝統芸能が数多く存在し、活動を続けているが、現状は多くの



竹岡三柱神社の木遣り獅子舞保存会(富津市)への支援金贈呈式



夢まるふぁんど文化・国際支援事業による支援金で修復された芸座道具

ところでそれを伝承するための後継者や活動資金が不足するなどの問題を抱えている。この事業はそれらを財政的な面で支えることで、伝統文化や芸能の振興を図り、地域づくりに寄与することを目的としている。

関係者から高評価を受けるとともに 業界への理解と信頼を得ることに貢献

公平・公正な支援を行うため、支援する団体は公募により募集し、夢まるふぁんど委員会の実務者会議による書類審査を実施して支援団体を決定している。まず、7月に社会貢献委員及びメディア3社の担当者による実務者会議で事業内容を協議し、8月下旬に公募パンフレットを県・市町村教育委員会に配布、9月から10月にかけて公募のための新聞・テレビ・ラジオを使った記事掲載やコマーシャル放送を行う。11月には支援団体を選定し、12月に千遊協役員や支部組合長などが直接、支援団体に赴き、支援金を贈呈している。さらに贈呈状況を報告するポスターを作成し、各ホールに掲示して周知に努めている。

2016年は17団体から申請があり、そのなかから上高根敬愛講社(市原市)、竹岡三柱神社の木遣り獅子舞保存会(富津市)、鬼来迎保存会(横芝光町)、千葉県文化振興財団(千葉市)、木下囃子保存会(印西市)、並木町祭礼委員会(佐倉市)、伊能歌舞伎保存会(成田市)、房総の郷土芸能2017実行委員会(千葉市中央区)の8団体に総額300万円の支援金が贈られた。

2005年の事業開始以来、昨年までに支援した団体はのべ60団体、支援金の総額は4,714万円になっている。支援活動が浸透し、例年、20団体前後の申し込みがあるなど、県及び市町村教育委員会から高い評価を受けている。また、役員や地元の支部組合長が支援団体に赴いて支援金を贈呈しているため、地域の関係者と直接話し合うとともに、伝統文化や伝統芸能の継承の難しさや苦勞を肌で感じることができるという。こうした活動が業界への理解と信頼につながり、地域と良好な関係を築くための一助となっている。



夢まるふぁんど文化・支援事業を報告するポスターを各ホールに掲示して周知に努める